

**【特徴】**

当センター小児総合診療科は感染、免疫、ワクチン、アレルギー、腎疾患、膠原病を中心にしながらも小児内科系疾患全般に幅広くアプローチする方法について学ぶことができることを特徴としている。専門に特化した各診療科の隙間に入ってくる病気をかかえた子どもたちを診断し、治療を方向づける技術も習得する。

**【研修目標】**

## 1. 一般目標

まず病態を把握するために何が必要であるかを学ぶ。病歴を聴取し、患者を観察し、検査データ、画像診断などの結果を総合して、病態生理を自分なりに理解し、治療方針をたてること。

## 2. 行動目標

- (1) 小児医療センター専門各科、救命救急部、集中治療部、医事課などの院内各部署との連携を学ぶ。
- (2) 子どもの急性期治療から回復後の地域医療機関との連携まで、幅広い医療の全体像を理解し、体験する。
- (3) 二次救急：小児医療センター通院患者、救急隊および他の医療機関からの紹介患者について、初期対応から入院指示・管理ができること。
- (4) 三次救急：脳炎・脳症・髄膜炎、けいれん重積、急性呼吸不全、急性循環不全、急性肝不全、急性腎不全等に対して重症病棟群の医師と協働して標準的初期対応ができること。また家族への初期対応ができること。
- (5) 腎疾患にともなう症状の特徴、評価の仕方について学ぶ。
- (6) 腎機能の評価、電解質バランス、酸塩基平衡についてその基本となる生理をベッドサイドでの観察と結び付けて理解を深める。

**【方略】**

- (1) 子どもや家族とのコミュニケーションの取り方について、ベッドサイドで指導医とともに学ぶ。
- (2) 初期臨床研修医とともに病棟患者処置を行う。
- (3) 上級医と連携しつつ、新規入院患者の担当医となり、診療計画立案・実施・検証を行う。
- (4) 初期臨床期研修医とともに退院サマリーを作成する。
- (5) 腎生検の助手を行うことで、穿刺の技術についてその注意点を知る。
- (6) 腎生検の検体を実際に自分で観て、標本作製について手順を学ぶ。
- (7) ネフローゼ症候群やIgA腎症などの小児における治療方針、薬剤の副作用の問題点を調べ、実施に際する注意点などを指導医から学ぶ。
- (8) 高血圧緊急症、急性腎不全など緊急対応を要する病態の理解と対処法について身につける。
- (9) 腎生検による腎病理診断の基本を知る。

**【評価】**

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

**【見学等問い合わせ先】**

小児総合診療科部長 外川 正生